

## 文化会館利用者懇談会概要（青年団体）

日時：平成23年8月4日（木）

午後7時

場所：アートフォーラム 大会議室

〔出席者〕 鶴岡吹奏楽団 庄内ボードゲームサークルブラッド  
サークル「静」 バンド同好会 3名 陶芸サークル Lovely

社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 社会教育主査 芸術文化係長  
青年センター指導員

## 舞台について

- ・プロのオーケストラがフルで演奏できるという環境が一番問題ないと思うので、山響に音響も含めて意見をいただければいいと思う。
- ・舞台演劇ではステージいっぱいのセットがそのまま後ろとか上手下手に分解せずに移動できるスペースがあるホールが望ましいと思う。全部でなくても半分ないし三分の二程度がおさまる、そのくらいの余裕がほしい。
- ・舞台は庄内町の響ホールのような感じがよい。すごく設備が整っている。

## 諸室・設備について

- ・大型の楽器が場所をとるので、リハーサル室等のそばに何個か倉庫がある、あるいはロッカーのようなものが荷物置き場としてあるというふうに、常時楽器をおける場所を提供していただきたい。たとえば市の登録団体の活動に対して場所の支援も含めておこなっていただければ、一般市民団体としては利用料をある程度払ってでもその価値があると思う。
- ・会館に楽器が据え付けてあって、登録団体が自由に使ってもいいというところもある。中高生がホールやリハーサル室を使いたいときに、その都度持ち込まなくてもそれで練習できる。（特に大型の打楽器など）
- ・リハーサル室や会議室へ、表側から入れる通路と裏からホールに抜けていける通路があると、お客さんと出演者の動線が交わらなくてすむ。
- ・楽屋としても使えるような小会議室を。間仕切りでひと部屋を二つに仕切ることができるような造りに。

- ・コンクールの時など、楽器を持った人の移動が一方通行でできるとよい。
- ・冬や雨の日でも室内で道具や人が移動できるような形に。楽屋口からの間口が今の倍くらいあると大型の打楽器も外を回さずに全部室内を回せるようになる。
- ・搬入口は4トントラックがまっすぐつけられて、段差なく同じ高さで道具が移動できると効率がいい。2台できれば一番いいがスペース的に無理であればせめて1台、屋根がかかって風が防げる状況であるといい。
- ・できるだけ中途半端でないホールがいいと思う。「プロの公式戦が行えない球場」と同じになってはまずい。
- ・客席数は今と同等でもかまわないと思う。
- ・今はいすを運び出さないと車椅子用のスペースが作れないので、最初から確保してほしい。
- ・ホールの一番後ろに、親子ルームはできないか。スピーカーでしか音を聞けないが、防音のガラスで中で声を出しても大丈夫なようにして、親子連れで演劇を楽しみたいとか子ども対象でない催しを楽しみたい人が子連れで入れるように。もしくは託児できるスペースを確保して、託児を設けるかどうかは各団体に判断できるようにする。それが有料であっても望む方はいると思う。
- ・視聴覚室は日曜の公演のために前日から押さえられていることが多く、土曜日の夜はなかなか取りづらいので、土日練習できるような環境が整うとうれしい。
- ・ロビーがもっと広めだとよい。終わった後お茶でも飲んでゆっくりできる場所があれば。
- ・今青年センターと文化会館の間に灰皿をおいて簡易的な喫煙所のようなものを設けているが、冬は寒いし、いっそのこと喫煙所を作ってしまうとポイ捨てなどがなくなるのではないか。楽屋のほうにもそういう設備を。
- ・酒田の総合文化センターは四階建てで、四階は青年センターの視聴覚室のような部屋が数多くあるが、そういった部屋があれば多くの団体が練習室として使える。

### 駐車場について

- ・駐車場が足りないのではという声があるが。
- ・地下に駐車場を作ることは考えられないか。
- ・立体駐車場は。
- ・特に芸術祭の期間には、イベントが各所で同時にあるとすぐにいっぱいになってしまう。土日には大型バスが致道館などに来たりして、観光客も同時に利用する。車

が入るキャパが大きければ周辺を含めた利用価値があがると思う。

- ・自転車を置く駐輪スペースも整備してほしい。

### その他

- ・体制として青年センター機能を中央公民館に移管するのであれば文化会館の施設とシステムを一本にして、たとえば中央公民館に空きがなければ文化会館を使えるというように柔軟に対応してもらえればもっと自由に使える。
- ・障害者の方が働く就労の場の提供のため、障害者施設への清掃業務委託を考えてもらえないか。
- ・現在ほとんど会場を使用して発表する機会がない。目的がないと練習する甲斐がないので発表の場がほしい。

### 青年センター機能について（質疑応答）

- ・解体からオープンまでの二年半は、使用できなくなるということだが、青年スクールはこれからも続いていくのか？  
→青年センターの機能は中央公民館への移行を検討中。
- ・文化会館と青年センターが統合されて同じ建物になるようなイメージなのか？  
→文化会館単独となる。
- ・現青年センターには和室があるが、新しい文化会館にも作っていただけるか。  
→現段階では検討していない。
- ・陶芸用の窯は作っていただけるか。  
→現段階では検討していない。

## 検討委員会で出された主な意見（まとめ）

## ■基本理念・基本方針等

## 【基本理念】

- ・ 市内にとどまらず発信していくものなので、「生命いきいきとした文化都市」とか、「命輝く鶴岡市には」など、みんなの夢をつなぐ、広がりのある言葉遣いがあると良い。
- ・ 舞台芸術を中心とした「多様な市民の」文化活動をさらに促進する。
- ・ 合併後のシンボルとなるような文化会館などの言葉があれば、市民一体となって前に進める。
- ・ 鶴岡が過去から未来へとつなぐ殿堂としての文化会館など、鶴岡らしさ、夢を語れる言葉が必要。
- ・ 地方全体が活性化するようなメインテーマ、それで鶴岡が一本になればいい。
- ・ 今日まで文化会館を使ってきた状況、地域がいままで積み上げてきた芸術文化活動の形をどう評価し、位置づけていくか。
- ・ 今までの芸術的実績、伝統がベースにあり、そこから新しいものの創造がこれからの会館の構想となる。
- ・ 鶴岡の音楽が育ってきているのは、人と人との横のつながりによるもの。ここまで育ってきているのを伸ばしていきたい。
- ・ 未来をつくる意味で教育関係も大事にしたい。（小中高生の利用が50%）
- ・ 未来を担う世代を育成していくこと、最後は人づくりである。
- ・ 市民活動が育っていった新しい文化都心を作る総決算ではないかと思う。
- ・ 世界一音響のいいホールで子供たちを育てる、演劇ではここで指導をしたいと思わせるくらいの、そうした特徴づけが理念にあった方が良い。
- ・ 何のために、どういう文化会館を建てたいかが理念。しっかりと議論を。
- ・ 基本方針の中で相反する内容が一緒に提起されている。
- ・ 基本理念と目指す施設の方向性、それぞれの順序だてと関連性が必要である。
- ・ 文化の捉え方も人さまざま。演劇や音楽をトップとして作るより、文化という広い視点で考えた方が、時代の流れにそっていけるのではないか。
- ・ 文化会館の特性をどうするか。最初から音楽、演劇ありきではなく、民俗芸能など様々な流れがある。
- ・ 各地域で大事にしている伝統芸能を育てることに、どう貢献できるかも考えたい。
- ・ どういう文化会館を作るのか各項目の中で方向を描けた段階で、基本理念にフィードバックさせる方法はどうか。目指す施設の方向性→基本方針→基本理念という議論の流れが良い。

- ・今の段階では基本理念がこれでよいかまだ判断できない。議論する時間が足りないので委員会の回数を増やしてはどうか。
- ・いままでホールについての意見で、①多目的、②音楽・音響重視、③もっと多様な使い方ができるなどが出たが、では具体的にどういう機能を持つのか、何項目か意見を出してはどうか。

## ■めざす施設の方向性

### 【ホール・舞台等】

- ・利用者(市民)が使いやすいホール、次にできればプロも納得するもの、様々な人の交流が図れる施設。
- ・プロもある程度納得できる多目的なホール。(音楽と演劇のバランスを上手く取れないか。)
- ・大きなホールで、大掛かりな可変装置は多額のコストを要する。(生音系と演劇系では機能が大きく違う)
- ・鶴岡の特徴としてクラシック音楽があるが、音響を考えると、凄いクラシック専門の音楽ホールより、オペラハウス的な感覚のホールがよい。
- ・全国水準の公演を呼べるホールがよい。
- ・2階席の無いホール。
- ・スロープの工夫等で利用者に負担の少ない形状が良い。
- ・舞台性能、音響などに特化した小さなものを積み重ねる構成もありうる。
- ・一流の公演を招くことができ、また将来にわたって多用途に対応できるキャパシティであってほしい。

### 【その他】

- ・幅広い市民の交流を図るうえでも、ホワイエ、エントランスホールの充実を望む。
- ・ホワイエ、ロビーからの景観がいいホールを考えたい。
- ・リハーサルの場所とステージの動線などの使い勝手が良い配置にしたい。

### 【施設運営】

- ・設備内容、節電対策等の工夫で、ランニングコストを抑える設計ができるかが大変に重要なこと。
- ・現文化会館の人的な機能、人のつながり、スタッフも一緒に考えてくれる良さは引き継ぎたい。
- ・使い勝手がよい運営方法の工夫、経営方式なども議論していきたい。
- ・文化ホールなので効率性だけで考えるべきではないが、財政的にかなりの持ち出しとなる。
- ・教育、文化振興という考え方も大切。

## 専門委員会で出された主な意見（第1回専門委員会より）

## ○ホールの方向性

- ・検討委員会などの意見をみると、多目的ホールとはどういうホールなのか、音楽専用ホールとはどういうホールなのか、具体的なイメージとして不明確な中で話し合いがされているという印象がある。
- ・ホールの方向性をまず決めないと、その先の舞台など施設のことについての話し合いが進まないと思う。
- ・いろんな用途をすべてこなそうと思ったら不可能と思うし、音楽以外のものに主体を置くといろんな面で弊害が出てくる。
- ・マイクを使わない、アンプを通さない電気を使わない生の音をよりナチュラルに聞いてもらうという、本来の楽器の響きや人の声の響きがより聞きやすい感じにするのが音楽ホールである。
- ・ホールのコンセプトとしては、生音を基準にした響きのいいホールにして、後は限られた予算の中でできること（リハーサル室や楽屋などの付帯設備）を進める方がよい。
- ・「音楽専用ホール」とは言わなくても、「音響をととても大事にして建てたホール」というニュアンスで、実質上は生音を基準に考えたホールにしてほしいと思う。
- ・音楽に重点を置いたホールは、ほかの演目にも対応できると思う。音楽をメインにしたもので、演劇部門に必要なものをそろえる。
- ・オペラは、基本的に響きさえよければ何とでもなると思う。
- ・最終的に納得するようなまとめかたとしては、多目的ホールではなく、クラシックコンサートを中心としたホール。
- ・希望ホールは、演奏する側からみれば県内で一番いい。

## ○ホール

- ・舞台でPA（電気拡声音響）でのコントロールは多少できるが、ホール全体の響きは、建ててしまったらコントロールがきかない。
- ・残響時間のことは昔から言われているが、ホールの評価のひとつの目安。それ以外に明瞭度の問題がある。明瞭度がいいかどうか非常に重要。
- ・鑑賞者が「このホールの演奏会を聞きに来てすごく良かった、イスもゆっくりして響きもいい」、演奏者が「いいホール建てたな」と思う響きの良さを狙ってほしい。
- ・客席数1200は必要ない。例えば座席は1000で、200くらいが補助席みたいな感じにしてはどうか。
- ・イメージ的にあの敷地面積を考えると、ワンフロアは難しい感じがする。

## ○舞台

- ・多目的ホールは、ステージの温度湿度の管理ができていないことが多く、音楽専用ホールはきちんと管理されていることが多い。
- ・演奏者も照明舞台音響も、なるべく機械に頼らず、人が作っていいものができるような。あまり機械仕掛けは賛成できない。
- ・バトン関係は全部電動化が多いが、演出上ものすごくつまらない。危険な面もある。美術バトンくらいは手動にしておかないと事故が起こる可能性がある。
- ・最近のホールでも手動は結構ある。
- ・舞台迫りを一回使うのに3人のスタッフが必要。また、黒幕が薄くては、透けてしまうし、舞台の広さと照明の関係をよく考えないと、奥の方にピンスポットが届かないことも考えられる。
- ・オーケストラでは、舞台の奥行き十間くらいほしい。
- ・演劇やオペラの際、バトンや幕が必要になるが、反響板がじゃまになると聞く。
- ・スライド式の反響板は、コスト的には安い(?)のでは。ただ格納するためのスペースが相当必要となる。

## ○その他

- ・ピアノ庫は、空調をきちんとする。
- ・音楽育成も含めて、研修室や小さなリハーサル室も必要だと思う。
- ・小ホールが無理だったら、60人くらいの吹奏楽がゆったり練習できるリハーサル室があればいい。
- ・運ぶのが容易でない楽器を置いておける楽器庫や舞台備品などを入れる大型の倉庫がほしい。舞台の奈落でもよい。
- ・オケピットは、ステージが狭くなるのであれば無くてもいい。余裕ある客席数であれば、ちょっと撤去すればいいピットならあったほうがいい。
- ・地元の人がこれだけ使っているわけだから、より多くの方が見に来るようなものを作る。見に来る人は何回も足を運ぶけど、行かない人はほとんど行かない。そのへんのバランスが取れるような企画を文化会館としてプロデュースすることも考えたほうがよい。
- ・新しいホールでは、館長のような、いろんな催し物を仕切る立場の人たちの仕事はかなり大変になるのではないか。
- ・今評判のいい、採算の取れているところを参考にしながら、最終的にまとめあげていくのがひとつの方法と思う。

## 利用者懇談会等で出された主な意見（まとめ）

## ○ホールの方向性

- ・オペラが可能なクラシック系の多目的ホール
- ・総合芸術であるオペラに対応できる様なもの
- ・クラシカルなホールの音響
- ・多目的は無目的
- ・合唱や演奏会用も大切だが、ポップスや歌謡、大衆音楽や舞台など、全てに対応したものであったらよい
- ・ホールの“売り”“目的”を明確にし、日本各地からも誘客できる施設
- ・ホールのコンセプトに合った残響時間
- ・音楽、演劇を問わず、音響の良いホール

## ○大ホール

- ・1000～1200席でよい
- ・小中学校の利用では、1300席ほしい
- ・吹奏楽のコンクールなどでは、1500席の大ホール（県民会館以上）
- ・様々な大会開催を考え、1500席くらいがよい（東北大会）
- ・客席数の減少は望ましくない
- ・客席数は現在と同程度でもかまわない
- ・今と同程度の客席確保には、2階席3階席は非常に有効な手段
- ・2階席は非常に見づらいのでワンフロア
- ・2階席を設ける場合、利用に応じてクローズ
- ・2階席の下は音響が不安定
- ・安心してゆったりするシート
- ・座席の色は、地味な暗色系
- ・座席の配置は、千鳥状とし、段差や傾斜を考慮する
- ・車イスの客席は一等地に、介護者が脇に座れるように

## ○小ホール

- ・200～250席くらいの小ホールがあれば利用価値が高い
- ・リハーサル室を兼ねた小ホール
- ・中央公民館が小ホールとして機能しているので不要

## ○舞台・舞台設備

- ・ステージの広さは、現在の張り出し分を含めた広さ
- ・ステージ袖にも十分な広さを確保
- ・舞台袖、奥行きを十分にとる

- ・花道は広く
- ・ステージ上を回転式
- ・舞台の額縁の大きさはなるべく正方形（18m四方）
- ・機能を重視し、必要な設備を配置
- ・舞台上の幕やバトンの適正な配置と安全性を考慮
- ・美術バトンは手動
- ・舞台備品倉庫やピアノ庫の十分なスペース
- ・道具迫は、上手下手に必要。奈落の深さは4m以上
- ・舞台迫はいらない？いる？
- ・客席からの舞台の高さを適正に
- ・反射板は吊るタイプより、後方に格納するタイプ
- ・照明卓は、記憶できるもの

#### ○楽屋

- ・1階に小部屋、2階に大部屋を配置
- ・楽屋には、必要に応じ、上敷き（畳）が可能
- ・等身大の鏡
- ・メイン（主賓）の楽屋は操作盤の近く
- ・楽屋内に頑丈な吊り棚（荷物置）
- ・水回りの充実（トイレ、シャワー、洗面所、洗濯機、乾燥機）
- ・楽屋口と同じ階に設置

#### ○リハーサル室、練習室

- ・3階にリハーサル室又は練習室を配置
- ・練習室の設置（防音あり）
- ・リハーサル室や練習室への鏡の設置
- ・リハーサル室は舞台に近いところ
- ・50～80人収容可能なリハーサル室を複数

#### ○諸室・諸設備

- ・会議室は、控室としても使えるように
- ・催し物と関係なく使用できる会議室
- ・間仕切りのある大部屋
- ・市民が活動する拠点（部室のような）
- ・自動ドアは一ヶ所にし、他は手動
- ・客席後方への防音ガラス張りの託児室（親子ルーム）
- ・託児スペースの確保
- ・エントランスホールやホワイエの充実
- ・お茶を飲んでゆっくりできるロビー

- ・トラックヤード（大型トラック2台可能）
- ・搬入搬出口の十分なスペース確保と段差なく道具の移動を可能にしてほしい
- ・大型楽器用の荷物置場がほしい
- ・喫煙所の設置（一般用、楽屋）
- ・コートを預かるクローク ⇔ 1000人以上のホールでは大変、容易でない
- ・トイレは男女比1：2
- ・障害者用のトイレの整備
- ・わかりやすい案内表示
- ・備品（楽器）の配置
- ・楽器搬出入のための大きな扉
- ・大型装置や大型打楽器の移動がしやすいような通路やドア
- ・客席出入口に風除スペース
- ・録音用マイクの設置
- ・バリアフリー

#### ○駐車場

- ・大型車と一般車の入口を分ける
- ・車の出入りがスムーズにできる
- ・駐車場の有料化（低額で）
- ・駐車可能台数を増やす
- ・駐輪場の整備

#### ○デザイン、設計者について

- ・デザインより、安全、シンプル、使い勝手を優先
- ・致道館への配慮した概観
- ・鶴岡の歴史と風格、市民の誇りとなる会館
- ・鶴岡の気候を熟知した設計
- ・個性的で贅沢なホール
- ・音楽のまち鶴岡をさらに発展させるホール

#### ○その他

- ・事業運営へのボランティア導入は、十分に検討すること
- ・現況を把握し、会館後の利用を考え、必要な層が必要な使い方ができる施設
- ・建物だけでなく、付帯設備も含めた十分な予算の確保
- ・文化会館だけを単独で建てるのは贅沢
- ・二年半の休館は長い
- ・中学校高校は3年サイクルなので、二年半を縮小できないのであれば、他のホールとの融通の可能性を探してほしい
- ・会館を残しながら新しいものを作れないか、引き継がれてきた文化が途切れるのは

## 大きな損失

- ・使えない期間、市民全体で工夫し、助け合って我慢していく空気をみんなで作る
- ・鶴岡の文化が停滞してしまうのではないかとという危惧もある
- ・第二駐車場側に建設し、ギリギリまで現会館を解体しない方法は難しいか
- ・基本スタンスを酒田とは別のスタンスで、鶴岡の文化会館を作ってもらいたい
- ・アートフォーラムとの一体化、連携
- ・芸術文化施設の使用許可系統の一本化
- ・現スタッフ（メンテナンス）を引き続き雇用してほしい
- ・現スタッフの意見を十分に聴いて設計してほしい
- ・定期的なリフォーム
- ・100年も大切に使用される施設
- ・使用上の制約は極力最小限に留める
- ・建設は地元業者に
- ・障がい者就労の場の提供を考えてほしい

第1回 文化会館整備検討専門委員会

日時：平成23年8月17日（木）

10時

場所：アートフォーラム大会議室

〔出席者〕 牧 慎一 委員 亀井 淳 委員 成澤 孝夫 委員  
社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化係長  
（株）佐藤総合計画 東北事務所長 設計上席主任河田氏 設計主任 前見氏

コンセプト

- ・ 一番今早く考えなければいけないことはどういうホールにするのか、ホールのコンセプト、それを方向性として明確にしていくこと。いろんな意見を見ると、多目的ホールとはどういうホールなのか、音楽専用ホールとはどういうホールなのか、具体的なイメージとして不明確な中で話し合いがなされ、意見が出されている印象がある。
- ・ 生音、生の音楽を基本に作るホールか、電気の音、アンプやスピーカーの音を通した電気の音を基準にするか、大きな違いがある。結局今までの従来の鶴岡の文化会館をただ新しい建物にする、もしくは山形県民会館のようなホールをきれいな形で建てるのか、酒田の希望ホールやテルサホールのようなホールを鶴岡にいよいよ建てる考えなのか、この最初の選択が重要ポイントだと思う。そこをまず決めないと、その先の舞台や施設のことについては話し合いがなかなか進まないと思う。
- ・ 多目的でなく、何か特徴的なものひとつに絞るべき。そうでないと本当にもったいないと思う。
- ・ 音楽をメインにしたもので、後は演劇部門に必要なものを揃えるという形にしていけばよいのではないか。
- ・ 音楽以外のものに主体を置くといろんな面で弊害が出てくる。音楽か演劇か等ジャンルにこだわらず、「生音がきれいに聞こえる劇場」を作るということでよいのではないか。そうすると全部クリアできる。
- ・ 生の音がきれいに聞こえるホールを作れば、音響さんも調整しやすいはず。
- ・ 「クラシックコンサートを中心としたホール」というふうに何かひとつ明確にしない

と、なんでもできる多目的ホールではだめ。全国的にも、一番いいのは音楽、コンサートを中心としたホール。

- ・ 同じ予算でも音にこだわらないで建てれば見た目上、ものすごく立派なものができると思うが、それだけは避けてほしい。響きを良くしようとする、必ず見えないところにお金がかかる。ホールのコンセプトとしては「生音を基準にした響きのいいホール」という方向で行って、付帯設備のことなどは限られた予算の中で進めるしかないと思う。
- ・ 聞きに来た方が「このホールの演奏会を聞きに来てすごく良かった、椅子もゆっくりして響きもいい」、そして演奏者の方が「鶴岡いいホール建てたな」と思う響きの良さを狙っていただきたい。
- ・ 「音楽専用ホール」とは言わなくても、「音響をととても大事にして建てたホール」というニュアンスで、実質上は生音を基準に考えたホールにしてほしいと思う。
- ・ 生音がきれいに聞こえるということが一番だと思う。

## 音響

- ・ 昔は単純に残響時間が長いとそれは音楽ホールじゃないかと言われてたが、今は残響時間だけの問題ではない。生のピアノや弦楽器の音が本当にナチュラルな響きで聞けるホールが音楽ホールである。人の声や歌を歌う声も同様である。アンプを通さない、電気を使わない生の音をよりナチュラルな響きで聞けることを優先するホールが音楽ホールだと思う。
- ・ 今音響的にはどんどん進んでいるので、ただ響きが長いホールがイコール生の音でもいいかというところではなく、残響時間もちょうど良く、音の質、本来の楽器の響き、本来の人の声の響きがより聞きやすい感じにするのが音楽ホールであると定義づけられると思う。県内で言うと、それに近いのが希望ホール、テルサホールであると思う。「音のいいホール」を第一番に考えていただければと思う。
- ・ 舞台であれば PA でのコントロールが多少はきくが、ホール全体の響きは建ててしまったらコントロールがきかない。
- ・ 残響時間の問題は昔から言われているが、それはホールの評価のひとつの目安である。それ以外に非常に重要なのが明瞭度の問題。残響時間がひとつのポイントではあるが明瞭度がいいかどうか、室内の環境の反射だけでなく、吸音に対してどれだけ苦労して、お金をかけているか。
- ・ 室内環境を設計するにはコンピューターで、残響時間と明瞭度に対して、室内の壁

面の素材や構造をどうするかということ、ありとあらゆる形を想定して設計できるくらいになっているので、最近でははずれたというホールはあまり聞かない。

- ・音楽の環境にアマチュアもプロもない。
- ・音響の設計は、音響コンサルという会社があり、建築設計と連携しておこなっている。建物の幅とか天井の高さとか、容積とか空間の大きさとセットで、建築設計と一緒に音響設計をやらないと、後からいろいろ調整しなければならなくなる。
- ・昔は残響時間で評価されていて、長ければ長いほうが良いと言われた時代もあったが、今はそうではない。
- ・容積によって、何秒くらいの残響時間がいいかというのがある。容積が小さくなれば残響時間は少なくなるし、大きいと低音域（500 ヘルツ以下）の音圧は高くないとだめだとかいろいろある。そうしないといいい環境で聞けないというのは経験則で出てきている。容積に対する残響時間がひとつ、あとは音楽の種類、クラシック系なのか、室内楽系なのか。ひとつの目安が容積に対する残響時間と周波数特性。
- ・オーケストラだとファーストバイオリン（高音域）だけ、言葉だと人の話す子音だけものすごくうるさく聞こえるホールも意外と多い。今新しいホールは完全にコントロールされており、コンピューターを解析して、低い音がちゃんと前に出てくるような感じや、一番ナチュラルな形ができる。
- ・コンピューターでのシミュレーションが進んでいる。そういう意味ではデザインのにも非常にチェックがしやすい。形状と材質、仕上げ材、設計中に全部シミュレーションしてしまう感じ。

### 多目的ホールと音楽ホール

- ・多目的ホールと音楽専用ホールとの違いのひとつは、ステージの温度湿度管理ができるかどうか。多目的ホールはステージでライトが当たった瞬間から暑くなってきて、演奏が非常にやりにくい。ちゃんとしたホールは客席もステージ上も管理されている。音楽専用ホールとして、生の音になるべく良く響くように作ると、目に見えないところにお金がかかってくる。
- ・これからホールを新しく建てるのに、多目的ホールを建てるというのは聞いたことがない。あるとしたらまったく違う名称だと思う。
- ・今の文化会館も多目的ホールであるが、実は、山形県内の多目的ホールの中では一番響きがいい。昔のホールなのでいろいろ使いづらいところがあるが、響きが一番いい。

- ・ 生音を基準にすると、PA ががががん入ったときには、できないことはないが、聞き悪くはなってしまう。同じ舞台で、いろんな用途をすべてこなすのはおそらく不可能である。
- ・ 音楽に重点を置いたホールは、ほかの演目にも対応できるということだと思う。たとえば、能登の演劇堂というところは演劇専門ホールなので、他の演目はできない。
- ・ 演劇、オペラをやるときに、バトンや幕など、いろいろなものが必要になってくるが、多目的ホールのクラシックコンサートとなると、反響板の天井になる部分が吊ってあり、そこがものすごくかさばって、じゃまになるという話はよく聞く。クラシックは天井の反響板を組んだときに、客席と舞台との間に隙間が空いてしまうが、本当はないほうがいい。緞帳幕や絞緞帳などいろいろ入っているのでそうできないが、あそこまでぴたっとくっつくような天板の反響板だったらとてもいいはず。
- ・ 多目的ホールかどうかという言い方でなく、普通に「響きのいいホールを建てましょう」ということでいいのではと思う。結局音楽専用ホールなのかと言われればそうかもしれないが、せっかく新しく建てる機会なのに、また従来の文化会館の新しいものだとしたらもったいない。

## 舞台設備

- ・ シンプルでメンテナンスが楽で、なるべく機械に頼らず、人が作れていいものをできるような設備にしたほうがいい。そっちのほうがおもしろいものができる。お客さんには必ず伝わる。機械仕掛けには賛成できないし、このために制約されるホールもある。このようにはなってもらいたくない。
- ・ バトン関係を全部電動化しているホールがあるが、それでは演出上つまらないものになってしまう。それから、手加減なしだから危険である。せめて美術バトンくらいは手動にしておかないと事故が起きる。
- ・ 迫りがあるホールは、迫りを一回使うためだけに三人のスタッフが必要になる。
- ・ 黒い幕は、予算がないからと薄いものになると透けてしまう。
- ・ ホリゾン幕に明かりを染めるときに、普通表から当てるが、それを裏からの方式にしたのでホリゾン幕の後ろが 3・4メートルたっぷり無駄なスペースになっている。裏から当てる方式だと歌舞伎などをやるときに、背景幕を吊ってそれに明かりを当てる明かりがない。結局バトンに仮設で明かりを仕込んで当てるしかないというようなことになってしまう。
- ・ スライド式の反射板（ステージの奥に収納して、スライドしてセットする反射板）

が良いという声もあったが、格納しておくスペース、袖のスペースが相当なければならぬ。反射板の形のままで後ろにおいて置くので組み立ての手間もかからず、反射板としての性能は確保できるが、置いておくスペースが問題なため、近年は上に吊り上げておくほうが多いのではないか。

どちらにしてもメリットデメリット、長所短所ある。

### 舞台の大きさ

- ・ 奥行きを取りすぎると奥の方にピンスポットが届かない。
- ・ クラシックでは、酒田の希望ホールくらいは最低ほしい。オーケストラの前に指揮者がいて、ピアノを置いてピアノコンツェルトをやるような場合は、あれでぎりぎり。オーケストラを基準に考えると、あれで決して奥行きがありすぎることではない。
- ・ 「オペラハウスのな」というのは想像するにステージが広いというイメージなのではないか。その点でいうと現文化会館は山響くらいの編成のオーケストラでも、奥行きがぎりぎりである。テルサのホールは狭いが奥行きはある。だから「オペラハウスのな」というのを考えると、ステージやステージの後ろ、バックステージも広くいるので、舞台を広くという意味に解釈している。

### 付帯設備

- ・ ピアノ庫の空調はきちんとして温度湿度管理を。
- ・ リハーサル室は舞台の近くに。楽屋の出入り口は自動ドアに。出演者用トイレは十分に。本番前に音出しができる場所を。
- ・ 「ものすごく音のいいホール」というのが一番大事なことで、後の付帯設備については予算に合わせて差し障りないところをカットすればよい。
- ・ 教育的な分野での要望は相当強いようだが、音楽育成も含めて研修室だとか小さなリハーサル室だとかも必要だと思う。
- ・ 予算次第だと思うが、小ホールとか、無理なら60人くらいの吹奏楽がゆったり練習できるくらいのリハーサル室があれば。毎回大ホール借りるのは、今度は難しくなると思うので、そういうスペースが提供できれば。
- ・ ティンパニなどの大型の楽器を置いておける楽器庫があるのが望ましい。
- ・ 奈落を備品など入れておく倉庫に使うというのはいい手かもしれない。二間ちょっとあればどんなものでも十分おけて、舞台袖がすっきりする。

- ・オペラは、基本的に響きさえよければなんとでもなると思う。オケピットは、あればいざオペラ公演というときに対応できるが、そのために大事なステージが狭くなるなら、なくてもいい。客席を撤去する形のピットなら、あればいいかもしれない。
- ・昇降できるようになっていると一番いいが、人が乗って上下するものは安全の問題がものすごくうるさい。電動にすると、後々のメンテナンスが大変。
- ・コンセプトが決まったら、後の設備はスペースと予算次第。そもそもどのぐらいの大きさの建物を建てられるのか、予算がどのぐらいあるのか。響きがいいことを最重視してやると、簡単に建物を建てるよりは見えないところにお金がかかる。付帯設備については、それを差し引いてどれぐらいお金をかけられるかによる。無駄なところを削っていけば、予算は出てくると思う。

### 客席数

- ・与えられたスペースと予算次第。客席数も結局舞台をどう作るかで残りのスペースが決まってくる。
- ・山形のテルサが800席ちょっとで、最初はあまりにも小さいと思ったが、何年か使っているうちに、あるコンセプトを感じた。このホールはこの土地の中に最大限のスペースを作って、響きを優先して作ったら客席がそのくらいしかできなかった、その結果だということがわかってきた。だから客席を増やすことでステージを狭くしたり音響を悪くしたりすることは逆の話。例えば仮に1,000席しか取れなくても、響きを優先するならしょうがないと思う。
- ・興行、採算の問題もあるだろうが、そもそも世界的に有名な人の公演は一日だけではない。二、三日、長ければ一ヶ月やってそれで採算が取れている。地方の場合は一日公演、それで採算を取るために3,000席は、とても無理である。
- ・興行的なものを呼んで果たして、みんなが来てくれるかどうか。地元の人がこれだけ使っていても、見に来る人は何回も足を運ぶが、来ない人はほとんど来ない。そのへんのバランスを取れるような企画のプロデュースのことも考えたほうがよい。

### 客席の形状

- ・1,000~1,200 くらいだったらワンフロアのところも多い。設計上のコントロールは可能なので問題はない。
- ・あの敷地面積を考えると、ワンフロアは無理なのでは。面積からして無理であれば、二階席を作るしかないと思う。

- ・例えば座席を 1,000 で、200 を補助席みたいな感じにしてみようか。響ホールのように、二階のバルコニーのところにスペースを取っておいて、一階が埋まったときは椅子を並べるように。
- ・個人的な意見だが、1,200 席は必要ないと思う。

### その他

- ・実際ホールができれば、鶴岡の人たちは感激すると思う。一番がっかりするのは、見た目は立派だが、中身は今までと何も変わらない場合。鶴岡は、一般の方々に、自分の娘や息子の合唱や吹奏楽の発表を聞きに来る方が多いと思う。そのときに「こんなにいい音出て」と喜ぶと思う。
- ・建物と使い勝手の良さ、それから規制をうるさくしないで、また来てくださいというような、ほんのわずかホテル暮らしみたいな感じのホールができればと思う。
- ・いろいろ考えると結局、具体的な話、希望ホールとテルサホールのいいところを合わせたような感じになるのでは。
- ・今評判のいい、採算の取れているところを参考にしながら、最終的にまとめあげていくのがひとつの方法だと思う。やはり採算が取れないと。
- ・新しいホールが建ったら、催し物を仕切る立場の人たちの仕事はかなり大きい仕事。本当にいろいろわかっている方がやらないと大変なことになる。どこでも「箱物だけ作って」と言われているので。